

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 29 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	私立高等学校等授業料補助事業					
2 担当課名	教育庶務課	担当者名	判治康成	内線	4106	
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費	
	大事業	3	私立高等学校等授業料補助事業	項	1	教育総務費
	中事業	0		目	2	事務局費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	7,800,000円		決算額	6,640,800円	
	主な支出 (科目、金額)	補助金	6,640,800円			

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	西尾市私立高等学校等授業料補助金交付要綱に基づき、私立高等学校等に在籍する生徒の授業料を負担する者に対して補助金を交付することにより、公私立学校間における授業料負担の格差是正を図り、もって教育の機会均等の原則を確保し、合わせて私立学校教育の振興に寄与する。
6 事業の目的、効果	公私立間の授業料格差の是正及び私学教育の振興を図る。 授業料負担の軽減により、私学選択の自由、教育の公平の実現に寄与している。 平成29年度は557名に対し一律12,000円(年間)を交付した。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	市町村独自の授業料助成の拡充を求める陳情書が「私学をよくする愛知父母懇談会」及び「愛知私学助成をすすめる会」より提出(平成28年9月定例会、平成29年9月定例会。共に趣旨採択)。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	①拡大	子どもの貧困対策、もって教育の機会均等の原則を確保する取り組みとして、現制度の一律定額支給から、所得基準により低所得者層への増額を検討したい。
9 事業の問題点	国及び県も授業料補助を実施し、公私立間の授業料格差の是正及び私学教育の振興を図っている。また県内各市町村も同様に授業料補助を実施しているが、一律支給は西尾市を含め県内11市町村であり、他の市町村は所得基準により補助額に差を付けている。	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 29 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	中学生海外派遣事業					
2 担当課名	学校教育課	担当者名	天野万喜男	内線	4206	
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費	
	大事業	7	中学生海外派遣等事業	項	1	教育総務費
	中事業			目	3	教育指導費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	6,500,000円		決算額	6,500,000円	
	主な支出 (科目、金額)	委託料	6,500,000円			

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	本事業は、中学生の国際理解推進、国際感覚をもつ人材の育成を目的として、旧西尾市において昭和61年度から実施され、合併後も継続して行ってきた。平成21年度からは、派遣先をシンガポール・マレーシアとして、市内中学2年生20名と引率教員4名を派遣している。
6 事業の目的、効果	平成29年度までに計1,249名の中学生を海外に派遣し、ホームステイや現地の学校訪問等の交流活動を通して、国際理解の推進、国際感覚をもつ人材の育成という点で成果を収めてきた。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	本事業を開始した昭和61年当時と比べると、海外の情報は容易に入手できるようになり、また、渡航者や市内在住外国人の数は大幅に増加していることから、海外はより身近なものとなった。そのような中、テロや感染症の流行などによる不安からか、応募者数は年々減少し、平成29年度の市内全中学校生徒数に対する応募者数の割合は、平成23年度(11.7%)の半分(5.7%)にまで落ち込んでおり、今後この傾向の大幅な改善は難しいと考える。
8 今後の事業の方向性	左の「方向性」を選択した理由 ④廃止 事業開始当初の目的は達成されたものと考えられることから廃止とし、今後は限られた財源を有効に活用するために、市内在住外国人の増加という本市の実情に合った国際理解や、現在の学校教育のニーズを考慮した新たな事業に切り替えることが望ましいと考える。
9 事業の問題点	応募者数が年々減少しており、平成29年度の市内全中学校生徒数に対する応募者数の割合は、平成23年度(11.7%)の半分(5.7%)にまで落ち込んでいる。

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 29 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	ゲンジボタルの里管理事業					
2 担当課名	生涯学習課	担当者名	倉谷浩二	内線	55-3515	
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費	
	大事業	3	ゲンジボタルの里	項	5	社会教育費
	中事業	0	管理事業	目	1	社会教育総務費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	3,123,000円		決算額	3,074,105円	
	主な支出 (科目、金額)	光熱水費	87,172円	敷地借上料	524,206円	
		修繕費	92,880円	工事請負費	1,555,200円	
		委託料	765,000円	役務費	49,647円	

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	<p>対象者：一般市民</p> <p>概要：市はゲンジボタルの里区域を借り受け、自然観察道等の設置をしている。また、平原地域の自然環境とホタル生息域の保護活動のため設立された平原ゲンジボタルの里保存会と委託契約を締結し、施設の管理業務を行っている。</p>
6 事業の目的、効果	<p>目的：市内の貴重な自然環境の保全とともに一般市民や地区内小学生・中学生に自然の大切さを学ぶ機会と憩いの場を提供している。</p> <p>効果：管理委託によりゲンジボタルの里や周辺地域の自然環境が適切に保全されており、環境を学ぶ学習機会が提供できている。また、地域住民が保全活動に携わることでコミュニティの活性化にもつながっている。</p>

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	自然環境の変化により、飛翔するホタルの数も年々少なくなってきており、ホタル保存会や学校などの活動の継続がこの先も必要である。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	②現状維持	ホタル祭り期間中は、天候に左右されるものの毎年5,000人前後の鑑賞者が訪れる。ホタル保全地域として周知されているとともに環境を学ぶ機会が提供できていると考える。また、人の手が入らなくなり里が荒廃すれば、失われた環境を取り戻すのは容易ではないと考え現状維持が妥当と考える。
9 事業の問題点	害虫による木の立ち枯れがここ数年多くなっており、危険木の撤去を行うことにより、日当たり・風通しが良くなってしまい、ゲンジボタルの里自体の環境が変化してきている。また、自然観察道は環境に悪影響を与えない天然木を使用し作られているため、風雨にさらされることにより毎年改修工事を必要としているため、将来抜本的な改修を行う必要が考えられる。	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 29 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	愛知万博メモリアル愛知県市町村対抗駅伝競走大会					
2 担当課名	スポーツ課	担当者名	高須伸一	内線	54-0002	
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費	
	大事業	05	スポーツ大会開催事業	項	06	保健体育費
	中事業	00		目	01	保健体育総務費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	645,000円		決算額	645,000円	
	主な支出 (科目、金額)	消耗費	208,800円			
		食糧費	215,326円			
		役務費	64,608円			

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	愛知県内全市町村54チームが参加し、「愛・地球博記念公園」内の周回コースを、9区間28.7kmで競います。出場は、小学生から40歳以上とカテゴリー別にわかれています。 平成29年度は、市の部で38チーム中12位の好成績でした。
6 事業の目的、効果	2005年に開催された「愛知万博」についてメモリアルイベントを通じ次世代へ語り継ぐと同時に、愛知県内各市町村の交流、市町村合併後の一体化の促進、県民意識の高揚、県民スポーツの振興を目的としている。 徐々にではありますが、市町村合併後の融和は進んでいると感じます。また、長距離競技における愛知県のレベルもアップしています。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	西尾市では、陸上競技連盟に合併前から選手選考から練習会の実施、大会当日までの運営を受託している。近年では、年間を通じて小・中学生を対象に選手育成や強化のための練習会を実施している。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	②現状維持	西尾市陸上競技連盟に委託することで、安定した選手選考や練習会の実施をしています。今後も継続して西尾市陸上競技連盟に委託していきます。「見ている人に感動を」をテーマとして選手も頑張っていますので、西尾市全体で応援する機運を高めていきたい。
9 事業の問題点	多くの市民が関心を持って応援してくれていると思いますが、まだまだ少ないように思います。市民の応援が選手の力になりますので多くの市民に応援していただきたいです。	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 29 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	第5回「尾崎士郎賞」					
2 担当課名	文化振興課	担当者名	齋藤俊幸	内線	56-6660	
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費	
	大事業	5	尾崎士郎記念館維持管理事業	項	5	社会教育費
	中事業	0		目	6	資料館費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	1,625,000円		決算額	1,624,027円	
	主な支出 (科目、金額)	謝礼	380,000円			
		記念品商品	399,204円			
印刷製本費		832,393円				

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	「尾崎士郎賞」は、西尾市出身の小説家・尾崎士郎の没後50周年を記念し、平成25年度に創設された賞です。広く文章作品を募集し、郷土の作家である尾崎士郎を顕彰するとともに、その文学への熱い想いを未来へ受け継ぐことを目指します。
6 事業の目的、効果	尾崎士郎（1898～1964）は、愛知県西尾市吉良町（旧幡豆郡横須賀町）に生まれ、小説『人生劇場』で国民的作家となりました。郷土の作家である尾崎士郎を顕彰するとともに、その文学への熱い想いを未来へ受け継ぎ、市の文化の向上を図ります。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	地元小中学生に「尾崎士郎賞」を通じ、文学への興味を持っていただく。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	①拡大	市内の小中学生及び高校生に今以上に応募していただく。
9 事業の問題点	最優秀賞、優秀賞を各1点設けているが、表彰式参加旅費の予算が計上されてなく、昨年度はいずれも欠席であった。	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 29 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	図書館障害者サービス				
2 担当課名	図書館	担当者名	原田依子	内線	56-6200
3 予算科目	会計	一般	款	10	教育費
	大事業	図書館運営事業・図書購入事業	項	5	社会教育費
	中事業		目	10	図書館費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	375,360円		決算額	334,275円
	主な支出 (科目、金額)	郵送料	2,850円		
		データ検索料	40,000円		
		図書費	291,425円		

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	障害等の理由で、図書館の利用が困難な利用者が、図書館や図書館資料の利用ができるよう、資料（大活字本、録音図書、LLブック、点字図書）や設備の充実を図る。また、自館の資料のみでなく他館からも点字図書や録音図書を取寄せて貸出する「郵送貸出」や視覚障害の方への「対面朗読サービス」を実施。
6 事業の目的、効果	2016年4月1日より、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、高齢や障害等をお持ちの方の利用についても配慮し、市民の誰もが利用できる図書館サービスを行う。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	病状の進行により視力・聴力に不安を抱えているが、障害者手帳を持っていないため点字図書館等の利用が認められない方や、高齢による車の利用の制限や公共交通機関のない地域の運転のできない高齢者の資料利用の要望は増加する。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	①拡大	高齢化がすすみ、読書意欲の高い高齢利用者の増加が見込まれるため。
9 事業の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスを本館中心に行っているため、分館の設備等の整備が遅れている ・書架が高く、通路の間隔が狭い箇所など、車いすでは利用しにくいいため障害者理解の研修や対応職員の配置が必要である。 ・対面朗読などのボランティアの養成が必要。 	